

しら い う ざん
白井 雨山 (1864~1928)



彫刻家。日本画家。宇和郡鬼窪村(現、西予市)出身。本名は保次郎。明治18(1885)年に上京し、当初は日本画や洋画を学んだ。生活苦などにより一時帰郷したが、明治22(1889)年、東京美術学校(現、東京藝術大学)が開設されると、一期生として入学し優秀な成績で彫刻科を卒業した。

明治31(1898)年、東京美術学校の助教授となり、木彫りを中心とした日本の「彫刻」を研究するが日本の彫刻が西洋に遅れていることを懸念し、粘土で原型を作って石膏で型どりをする西洋の「塑造」の方法を研究するようになり、塑造科の新設に尽力した。明治37(1904)年、教授となった雨山は、塑造科の授業を担当する一方、「彫刻」と「塑造」の作品の特徴を合わせた「彫塑」という新しい造形芸術の普及に努力し、文部省美術展覧会(通称「文展」、現、日本美術展覧会)に自ら出品して模範を示した

ほか、審査員として活躍した。

略歴

- | | |
|-----------------|----------------------------------------------------------------------------|
| 元治元(1864)年3月1日 | 宇和郡鬼窪村に生まれる。 |
| 明治22(1889)年2月 | 東京美術学校に入学し、高村光雲や竹内久一などに木彫を学ぶ。 |
| 明治26(1893)年7月 | 美術学校彫刻科の第1回卒業生として卒業。卒業制作は木彫「老子像」
石川県工業学校(現、石川県立工業高校)の教諭となる。 |
| 明治31(1898)年4月 | 母校に戻り助教授に就任。彫刻科の基礎実技として塑造を取り入れるとともに、洋風彫刻の学科として「塑造科」を新設するよう文部省に建白書を提出 |
| 明治32(1899)年 | 彫刻科内に塑造科が設置され、助教授に就任。塑造教育を担当 |
| 明治34(1901)年 | 彫刻分野における最初の文部省留学生として渡欧し、仏・独で塑造を学ぶ。 |
| 明治37(1904)年 | 帰国後、美術学校の教授に昇格 |
| 明治38(1905)年 | 東京金工会で金賞を受賞 |
| 明治40(1907)年 | 東京勸業博覧会で審査員を務めるとともに一等賞を受賞
文部省美術展覧会第3部(彫刻)でも審査員に任命される。
以後、文展に何度か出品する。 |
| 大正5(1916)年 | 美術学校理事となり、校内全般の肅清に尽力 |
| 大正8(1919)年9月 | 文人画復興を趣旨とする「又玄画社」を結成。この頃には、詩書画三絶を理想とし、漢詩を盛んに作っていたという。 |
| 大正9(1920)年11月 | 美術学校の教授を辞職して大阪に移り、漢詩と文人画に専念 |
| 昭和3(1928)年3月23日 | 65歳で永眠 |

(写真：『雨山先生遺作集』より)

〈関連図書〉

- ・ 桑原實監修／磯崎康彦・吉田千鶴子共著『東京美術学校の歴史』 日本文教出版株式会社 1977年
- ・ 日展史編纂委員会『日展史 第1～6巻〔文展編、帝展編一〕』 社団法人日展 1980～82年
- ・ 仙波丈明・神山朋也「白井雨山」『伊予の画人』 愛媛新聞社 1986年
- ・ 愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 芸術・文化財』 愛媛県 1986年
- ・ 中村傳三郎『明治の彫塑－「像ヲ作ル術」以後』 文彩社 1991年
- ・ 『愛媛人物博物館 人物探訪第6集』 愛媛県生涯学習センター 2004年

〈ゆかりのある場所〉…(P293, 119)

〈関連施設〉…宇和先哲記念館

〒797-0015 愛媛県西予市宇和町卯之町4丁目327番地 TEL: 0894-62-6700